

病院とwin-winになる / 知っておきたい最新労務管理

CLINIC

今日と明日の開業医をサポートする
——最新クリニック総合情報誌

ばんぼう

BAMBOO

3

MAR.2015
VOL.408

ISSN 1342-8662

[特集] 開業医には必要不可欠のスキル

病院との 賢い付き合い方

SICK



CLINIC



CURE



HOME



HOSPITAL



INTRODUCE



CLINIC



SICK



CURE



CLINIC



CARE



[第2特集]

制度が変わるって
知ってます?

急がれる 労務管理の 次の一手

百 医 争 鳴

内山明好 パークサイド広尾レディスクリニック院長

関口由紀 医療法人 LEADING GIRLS
女性医療クリニック・LUNAグループ理事長

他院との差別化、患者満足度の向上 経営戦略を後押しする企業を紹介

他院との差別化や患者満足度の向上に向けた戦略を実現させるには、企業のバックアップが不可欠だ。Part2では、がんばる整形外科を応援・後押しする、株式会社インディバ・ジャパン、日本光電工業株式会社、メドー産業株式会社の取り組みを紹介する。

株式会社インディバ・ジャパン 「インディバ®・アクティブ」

口コモ予防にも効果
患者のQOL向上につながる



ロードレースやマラソンなど、世界のトップアスリートからの信頼も厚い

スポーツ業界でさまざまな実績 自院の差別化に有効

1995年に設立した株式会社インディバ・ジャパン（本社：東京都目黒区、山口薫代表取締役社長）は、安全な周波数の高周波を用いて細胞に働きかけ、体内に熱を発生させる高周波温熱機器「インディバ®」の輸入・販売を手掛けている。基礎代謝の向上や活性酸素の除去に効果を発揮することから、従前、形成外科や美容外科、エステ領域では高いシェアを誇ってきた。5年前からはスポーツセラピー

や鍼灸、整骨分野に特化させた「インディバ®・アクティブ」を販売している。

同製品の効果は、大きく分けて①早期の疼痛緩和、②障害や炎症からの回復、③コンディショニングの3つ。特に①②については、筋断裂や骨折といった急性期の損傷でも1回目の施術から痛みが和らぐという声が聞かれ、ヨーロッパではさまざまな競技のトッププロにも愛好されているという。最近では、整形外科診療所での導入も進んでいる。山口祐司代表取締役会長は、こう分析する。

「多くの整形外科診療所は、高齢者がメインの患者となっており、接骨院や鍼灸院、マッサージ店などを含め競争が激化しています。そのため、当製品を導入してスポーツ整形などを展開し、競合との差別化を図る例が増えてきています」
実際に導入している診療所からは、機器の評判が口コミで広がったことよって新患の獲得にもつながったとの声が聞かれています。

自由診療など 新たなメニューの提案も行う

「教育あつての販売」を基本理念とする同社では、ユーザーへの教育体制を充実させている。販売方式をすべて直販とし、購入したユーザーに対して機器に関する基本的知識や使用方法をレクチャーするだけではなく、診療所のスタッフの取得資格の種類や技術力に合わせた施術メニューの提案も行っている。

この取り組みを支えているのが、現在17人在籍しているインストラクターと呼ばれるスタッフ。基礎知識の習得支援や実技指導、各種提案などを行う役割を担って

新たな展開に打って出る
がんばる整形外科の経営戦略

おり、ユーザーが同機器をより有効に活用できるように多方面からサポートしている。

山口会長は、「当製品は本来、全身どこにでも使うことのできる機器ですので、技術さえ覚えていただければさまざまな応用が可能です。当社では、院長やスタッフの皆さんと顔を合わせて診療所の方針や現状を把握するなかで、新たなご提案も行っています。たとえば、スポーツ整形のために導入いただいた当製品を用いて、新たに美容系の自由診療を展開しているケースもあります。他院との差別



←高周波温熱機器「インディバ®、アクティブ」

↓スポーツ整形などで整形外科に導入されている



化や患者満足度の向上に向けてそうしたニーズも増加していますので、今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています」と話す。

このほか、400人規模で年一回開催される「インディバ®・コンベンション」や定期的な講習会を実施。新しい有用性について紹介しているほか、ユーザー同士の交流や意見交換の場づくりも担っている。

**健康寿命の延伸に向け
 ロコモ予防にも着手**

「今後は企業として、社会に貢献

できる活動を展開していきたい」と意欲を見せる山口会長。特に、少子高齢化を大きな社会問題と捉えており、健康寿命の延伸に向けて同社がどのような役割を果たすべきかを模索しているという。

現在、取り組みを進めている分野としてロコモティブシンドローム（運動器症候群、以下ロコモ）がある。介護予防の観点から近年注目が集まっているロコモだが、運動の継続が難しいなどの課題もある。そこで、同製品をロコモ予防の一環で使用することを打ち出した。

「当製品は身体を温めて代謝を高めるので、骨粗鬆症や筋力低下の予防に効果を発揮しますので、ロコモの予防につながると考えています。ご高齢の方が多く訪れる医療機関では、ロコモ予防のための取り組みは有効ですし、とりわけ運動器疾患を扱う整形外科との親和性はとても高いと思っています」と、山口会長は強調する。

また、同製品を導入している診療所にロコモ予防としての利用方法を提案するだけでなく、同社



自らロコモ啓発にも乗り出している。具体的には、「知らないなんて危険! 迫りくるロコモ症候群」という啓発のための冊子を作成。漫画でロコモについてわかりやすく解説した内容となっている。医療機関の待合室のほか、同社の顧客であるサロンなどに設置し、より多くの人にロコモの危険性を認識してもらおうことを目標としている。

「ロコモ予防を通じた『健康寿命の延伸』に加え、当社が従来から得意としている美容効果によって『健やかに美しく』『いつまでも若々しく』ができれば、高齢者のQOLを高めることができると考えています。これが実現すれば、当製品はまさに「一石三鳥」の価値を生み出すことができます。かかりつけ医として、患者さんのQOLを高めるためにもぜひ当製品を有効に活用いただければと思います」（山口会長）

DATA
 株式会社インディバ・ジャパン
 東京都目黒区碑文谷5-15-1 1F・B1F
 TEL: 03-5768-8871
 http://www.indiba.co.jp/